社長さんら直撃インタビュー

諫早商高1年生

失敗談から学び 進路助言も

地元経営者らと対話する「社長さん直撃インタビューシップ」が諫早市宇都町の県立諫早商業高（力丸資校長、633人）であった。1年生222人が17～19日、35企業・団体のトップらと語り合い、学んだ内容をパワーポイントで発表しながら、働く意味や将来の目標などを考えた。

金谷部長（右）にインタビューする生徒たち＝諫早市、諫早商業高

同校のふるさと教育の一環。同市のNPO法人「Seamless（シームレス）」（上野辰一郎理事長）と協働し、1年生全員を対象に初めて実施。対話力や発信力を身に付け、今後、進路を考える意識を高める狙い。

17日、生徒たちは41班に分かれ、校内外で各企業・団体のトップらに働く苦労や喜びなどをインタビュー。宅島建設（雲仙市）の金谷明克企画部長(63)は金融機関やテーマパーク、学校法人などで勤務した際の失敗談に触れ「現場で働く人たちのことを一番に考えて行動しないと、自分がやりたいことを進めることは難しい」と語った。

生花販売業「レ・フルール」（諫早市）の張本優子オーナーは、複数の進路に迷うという生徒の質問に対し「夢は絶対にかなう。そのために、どう準備して行動するか、習慣づけることが大切」と助言した。

1年生全員を前にプレゼンテーションする生徒＝諫早商業高

成果は校内でプレゼン

18日、生徒たちは学んだ内容を原稿に仕上げ、写真や地図、イラストを交えたパワーポイントを作成。19日は各クラスから選ばれた8班が、1年生全員らを前にインタビュー内容や感じたことを発表した。審査の結果、市教委生涯学習課に勤務する教員の話をまとめた2組5班がプレゼン大賞に決まった。

班長の松永奏詩（かなた）さん(16)は「進路が決まっていない高校生に対して『興味がない情報も取り入れ、多くの人との出会いを大切にしてほしい』とアドバイスしてもらい、自分から行動する大切さを学んだ。その内容を多くの人に伝わるようにまとめた」と話した。

（高比良由紀）